

令和7年度 第1回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日 時	令和7年6月4日（水）13：30～14：50
会 場	市役所栄庁舎2階 201会議室
出席者	委 員：中野会長、与斉副会長、高橋委員、松尾委員、今井委員、 佐藤委員、荻根沢委員 飯塚委員 事 務 局：平岡教育部長 子育て支援課 小林課長、相場子ども家庭サポートセンター長、 小林主任、米山主任、小海幼保小連携推進員 学校教育課 相田課長 報道機関：なし 傍 聴 者：なし
会議内容	
相場セン ター長	1 開 会 午後1時半開会  2 挨 拶 平岡教育部長挨拶  3 各委員及び事務局自己紹介 【出席者数の確認】 【資料確認】
小林課長	4 議 題 三条市幼児教育推進プラン（第3次）令和6年度 取組実施状況について（説明） 【令和6年度幼児教育推進プラン実施状況について説明】 （資料1・2、参考1に基づき説明）  【質疑・応答】
飯塚委員	特別な配慮が必要な子の支援について、子どもだけでなく、保護者に対しての支援も必要である。検査等について保護者に伝えても、知識がない保護者は受け入れられないし、理解が難しいのではないかと。保護者に個別に話をする必要があると思う。
小林課長	また、失敗経験について、今の子どもは、年々情報機器の発達により事前に情報が入りやすく、失敗の経験が少なくなっている。ある程度、失敗できる機会を教育機関で作っていく必要があるのではないかと。この2点は、生きる力の理念につながっていると思う。
	現在、配慮が必要な子には様々な支援を行っている。早期に気づき、医療につなぎ、適切な支援をしていくことで、生きづらさをできるだけ少なくしていくことを目指している。資料5ページにある「共有」は、保護者の理解のもと個別の支援を伝えることができるもの。しかし、1

	<p>割は共有できていない。子育て支援課では、様々な専門職がアプローチできるようにしている。今後も引き続き適切な支援を繋ぐことのよさを保護者に伝えていきたい。</p> <p>現在の情報社会は、SNSが発達し、何でも拡散する世の中になっている。今後、教育委員会内で協議を重ね、学校・保育園・各家庭それぞれでできることを協議し、取り組みたい。</p>
飯塚委員	<p>失敗経験はSNSの問題からではない。失敗してフォローしてもらった経験がないから、人と人との関わりが少なくなっている。AIやネット検索などで事前情報が調べられ失敗や難しいことが事前に分かってしまう。</p>
平岡部長	<p>発達障がいについては、これまではどちらかというと子どもへの支援を中心に行って記述している。資料12ページが家庭教育に関することである。保護者との信頼関係が日常からうまくいくことでよい支援ができる。日常の関わりが重要である。</p> <p>挑戦について、『非認知能力』を身につけてほしいという思いから、資料3ページにあるように体験活動を大事にしている。体験活動を通して保育士が「失敗してもいいんだよ」「間違ってもいいんだよ」という思いを大切にして伝えられるようにしていき、子ども達の自己肯定感を高めていく。</p>
中野会長	<p>保護者の相談窓口があった方がよい。保護者の方の相談窓口がどこかを分かりやすく示しておく必要がある。相談窓口がどこか分からないでいると、保護者は迷ってしまう。相談は学校や保育園だけで対応しようとするのが難しい。ソーシャルワーカーなども交えて連携していける方法を構築した方がよい。</p> <p>また、「試行錯誤する」「考えながらやる」経験は遊びが肝である。どのように遊びを充実させるかが重要であり、質を高めていく基礎を作ることにつながる。</p>
与斉副会長	<p>現場では、発達支援を行う難しさがある。子育てに悩んでいて相談してくれる保護者はいいが、客観的に支援が必要な子だが、家庭の方では悩んでいない・触れられたくないというケースもある。どうやったら、子ども自身が困らないようになるか、どう家庭をサポートしていくのがよいのか、園や学校職員の現場は困っている。そういう枠組みがあるといいのではないか。</p>
飯塚委員	<p>だからこそ、保護者への支援が必要である。相談機関「いのちの現場三条」があるが、オペレーターの確保などで資金がかかる。そういった</p>

	<p>点も今後一緒に考えていけたらよい。</p>
中野会長	<p>一番大事なのは子どもがよりよい状況になること。そして、子どもと保護者が一緒により方向に行けることである。それが個別の支援計画につながっている。学校や幼児施設だけでなく、様々な支援機関とつながるとよい。</p>
松尾委員	<p>保育所にいると、子どもの特性が見える。今の話は私も共感できる。保護者と話をする時には、選択肢を与えるようにしている。言い出せずにいた保護者にも積極的に声をかけたい。</p> <p>また、失敗については、遊びが大切である。自分で見つけ、試行錯誤しながら進めていけるように、保育士はこれからも勇気をもって遊ばせたい。</p>
中野会長	<p>喧嘩を止めると誰が何を学ぶのか。喧嘩をする中で、乗り越えていく力を子ども本人が学んでいく必要がある。余地の力を形成するのは子ども本人である。</p> <p>また、カリキュラム、安心わくわくプログラムの見直しについて、大切なのは中身である。内容が古くなっているので見直すことは理解するが、幼保小の接続期に保育園や学校のギャップをどう乗り越えていくかが大事である。そして一番大事なことは、やはり困り感のある子の得意な面や一人一人の育ちの姿、良い情報を学校につげていくことである。幼保小連携の実務者会議などで困難を抱える子どものよい情報を伝えることが肝要である。生きた情報を伝えることが大事であり、安心わくわくプログラムを見直す場合は、策定した主旨に立ち返ってほしい。</p>
小林課長	<p>今の現状に合わせ、学校が使いやすい物、ギャップを埋められるような物に変えられるようにしていく。5月の幼保小連携実務者会議では、情報交換をしっかりとやっていた。2月の中でも、保育園から小学校への接続がしっかりできるようにしていく。</p>
中野会長	<p>ノンコンタクトタイムについて、現実的に時間を作ろうとする時の課題は何か。</p>
松尾委員	<p>昼寝の時間を利用したり、午後出勤の職員を運用したりしている。そこに保育所の所長、主任やパート職員が入っている。</p>
高橋委員	<p>日々追われる仕事の方が多く、最初の頃は難しかった。「みんなの意識を変えないとできない」ということをみんなに伝え、思い切って昼寝</p>

	<p>の時を使って実践するようにした。職員同士の情報交換の時間が増えた。普段は接する機会が少ない未満児担当職員とも情報共有ができた。</p>
中野会長	<p>取り組んでみた実際の好事例を所長会議などで伝えるとよい。</p>
小林課長	<p>全ての保育園等で実施できなくとも、好事例を共有し、自園でできることを考え、取り入れていくようにしてもらおう。</p>
中野会長	<p>どのように取り組むとよいのか、相談ができないと分からないものである。好事例の発信をネットワークで行い、他の園との情報交換を大切にしてほしい。</p>
与斉 副会長	<p>幼稚園は昼寝がない。ノンコンタクトタイムを取れる時もあるという程度である。日々の業務もギリギリの職員人数でやっている。空いている時間で事務室にいても保護者や来客対応に追われているため、難しさを感じている。</p>
佐藤委員	<p>仕事の関係で午前7時から子どもを預けている。資料に「保育者の資質や専門性の向上」とある。保育士の働き方として、職員同士コミュニケーションが取れ、明るくよい雰囲気があると子どもに良い影響が与えられると思う。これからもよろしくお願ひしたい。</p>
今井委員	<p>ノンコンタクトタイムとは何かと思っていたが、保育の現場だけでなく、小・中学校も、休職に入る職員が増えてきている。一息つける時間がない。特に、小学校は学級担任制である。どこで息を抜けばいいのか心配になる。職員にとってもどこかで息抜きがいる。</p>
松尾委員	<p>去年から取り入れた保育士の研修について、成果を知りたい。</p>
小林課長	<p>今回の自己評価結果は、昨年度に比べると肯定的な回答が全体的に増えているという感触がある。昨年度から保育士のスキルマップに応じた研修を始め、まだ1年しか行っていない。これから徐々に改善できるような取組をしていきたいと思う。研修の内容については我々もよく考えていくが、所長先生方からもアドバイスをもらえるとありがたい。</p>
中野会長	<p>研修のアンケート結果等について所長先生方にフィードバックをしていくとよい。</p>
小林課長	<p>結果については、できるところをフィードバックしていきたいと思う。</p>

高橋委員	<p>保育士の勤務環境をよくしていただきありがたい。保護者一人一人に応じた手厚い支援が必要である。様々な研修や書類の提出、ノンコンタクトタイムの取入れ等たくさんの方が入ってくる中、時間の使い方が大きな課題である。若い先生方の離職が多い。思い描いていた職場と違うと感じる人たちをどう育てるかも大きな課題である。その課題を抱えている若い先生たちを育てながら、このプログラムに取り組み、保育の質を高めていくことが大変である。</p>
飯塚委員	<p>みんなが頑張っって向き合っっていくかねばならない。子ども同士のけんかに親がでていくことが多い。親も教育してもらおう姿勢が大事だと思った。</p>
中野会長	<p>家庭の教育力も大きい。PTA と教育委員会とも連携をとってもらえるとよいと思う。</p>
中野会長	<p>これで本日の議題は終了する。</p>
小林課長	<p><b>6 その他</b></p> <p>本日は、様々な御意見をいただき感謝申し上げたい。子どもたちにとって何が大切なのか、今回の御意見を参考にし、今年度の事業を実施していきたい。次回は来年、新年度に開催であるが、今後ご審議いただくことがあれば、会議の開催について、御案内をさせていただく。</p>
中野会長	<p>本日予定していた内容は全て終了する。      以上で、第1回三条市幼児教育推進会議を閉会する。</p> <p><b>7 閉 会</b>      午後2時50分閉会</p>